

逐次的単元構成法による授業の実践的研究

-保健体育・サッカー授業での活用から-

Practical Research by Successive Unit Construction of a Lesson

- From Practice by Health and Physical Education and Soccer Lesson-

中西 健一郎¹ 加藤 勇之助²

Kenichiro Nakanishi³ Yunosuke Kato⁴

要旨

逐次的単元構成法は、単元前半に教師主導型（知識習得型）授業を実施し、後半に生徒主導型（知識活用型）授業に移行するプロセスにより成立している。その特徴としては、生徒の主体的解決能力の向上を主たる目的の一つとしている点あげられる。主体的問題解決能力は、内発的意欲、主体的行動、達成満足、自己認識の4つの要素から構成されている。今回は、保健体育・サッカー授業において逐次的単元構成法を実践し、これらの4要素の変化を検証した。すべての要素において向上する兆候が見受けられた。以上をふまえ、本研究が、今後の継続的研究の基礎資料となることを期待する。

Abstract

In the successive unit construction carried out the teacher initiative type (knowledge acquisition type) lesson is carried out in the first half of a unit, and then is practiced according to the process of shifting to a student initiative type (knowledge practical use type) lesson in the second half. As the feature, the point considered as one improvement in the main purpose of a student's active subject solution capability is got. A student's active subject solution capability consists of four elements of endogenous volition, active action, achievement satisfaction, and self-recognition. This time, successive unit construction was practiced in health and physical education and a soccer lesson, and change of these four elements was verified. As a result, we can observe the signs which improve in all the elements. Based on the above, we expect this research to become underlying data of future continuous research.

キーワード： 逐次的単元構成法、教師主導型、生徒主導型、主体的問題解決能力

Keywords: successive unit construction of a lesson, the teacher initiative type, the student initiative type, a student's active subject solution capability

¹ 東海大学（札幌キャンパス）課程資格教育センター教育学研究室，005-8601 札幌市南区南沢5条1丁目1-1

² 筑波大学附属駒場中学・高等学校，154-0001 世田谷区池尻4-7-1

³ Professional License Training Center, Sapporo Campus, Tokai University, 5-1-1-1 Minamisawa, Minami-ku, Sapporo 005-8601, Japan

⁴ Tsukuba University Komaba Junior High School & High School, 4-7-1 Ikejiri, Setgaya-ku, Tokyo 154-0001 Japan

1. 序論

牛尾(2012)は、98年度改定の学習指導要領において『「生きる力」の育成が重視され、同時に「自ら学び、自ら学ぶ」教育への転換が必要とされる』と述べている。また、「生きる力」の要素として「急速に変化する時代の中で、自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質、能力」をあげている。2012年度に一部施行された学習指導要領においても「生きる力」は、より一層重視されているため、今後もその傾向は継続されていくことが予想される。

以上をふまえ、本研究では、生徒の「生きる力」を育むために、主体的課題解決能力の向上がその一助になりえると考えます。鈴木ら(2002)は、『主体的課題解決能力は、内発的意欲、主体的態度、達成満足感、自己効力感の4要素によって構成される』と述べている。今泉(2003)はこれらの要素を改善、向上させるために逐次的単元構成法を活用することについての有効性を示唆している。

逐次的単元構成法は、プロセスに依存した単元構成法であり、教師主導型から生徒主導型へ移行することにより主体的課題解決能力を育成することをねらいとする。鈴木(2002)に準拠して、主体的問題解決能力の育成プロセスは図1のような内発的意欲→主体的行動→達成満足→自己認識(→内発的意欲)の4つの領域を要素とする循環的因果構造とした。構成領域は、以下のように考えられる。

- ①学習に関わる内発的学習意欲 (内発的意欲)
- ②学習における主体的な行動力 (主体的行動)
- ③学習における達成感、満足感および楽しさ (達成満足)
- ④学習における他者受容間、自己決定感および自己効力感などに基づく自己認識 (自己認識)

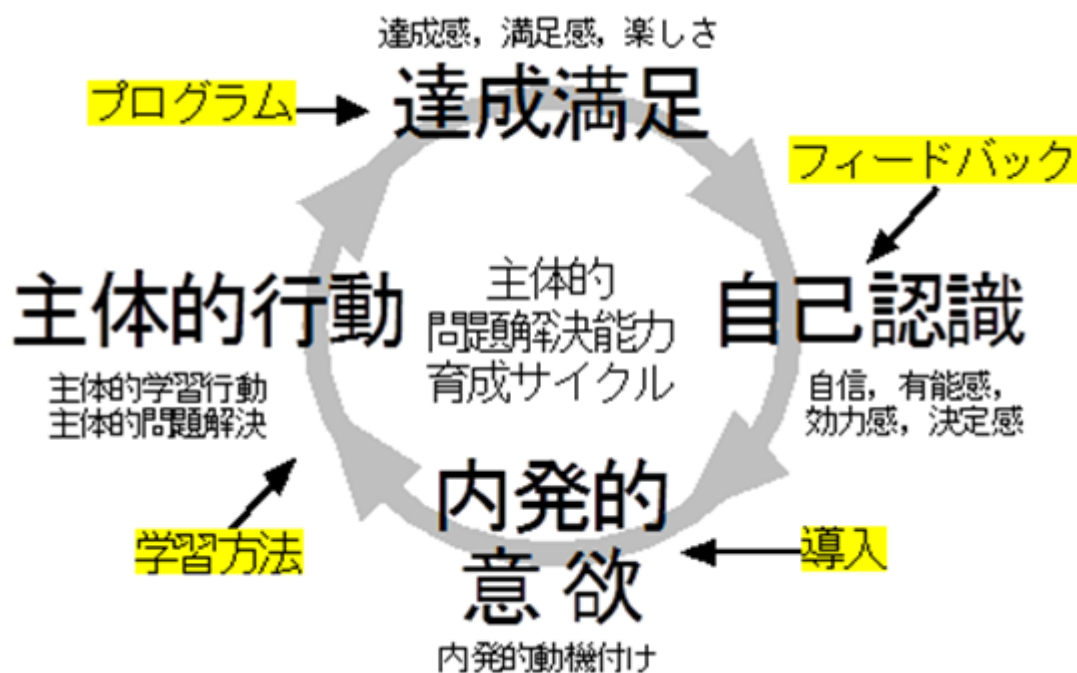


図1 主体的問題能力育成サイクル 鈴木(2002)

主体的な学習における生徒の行動は、まず内発的意欲・動機をもって学習に臨み、主体的に行動することを通して問題を解決し、学習の達成感、満足感および楽しさを体感し、自己効力感などに支えられた自信およびクラスメートや教師に対する受容感などから肯定的な自己認識を得る。それによって、再び学習に対する内発的意欲をもつ、という循環性および順序性のある過程を繰り返す。この学習プロセスを繰り返すことによって主体的問題解決能力が育成されることを仮定している。

今回、逐次的単元構成法の実行可能性を検証する教材としてサッカーを選択し、中学1年生男子の保健体育・サッカー授業における逐次的単元構成法の学習効果を分析・検証した事由は以下の状況に起因する。

望月(2012)は、文部科学省が提示している学力は「習得」するものと「活用」するものとの整理できるとして、2007年より導入された小学6年生と中学3年生を対象とした全国学力テストでも「主として『知識』に関する」問題と「主として『活用』に関する問題」の2種類で調査を実施していることを指摘している。

以上の点を考慮し、以下の仮説をたて、実践することで逐次的単元構成法の効果を検証したものが本研究であり、今後の継続的研究の基礎資料となることを目的とした。

(仮説) おそらく、対象となった生徒の大多数は、ただゲームを楽しむだけの授業しか経験しておらず、サッカーの戦術習得や判断力の習得(=知識の習得)を目的とした授業を経験していないであろう(これは後述する事前調査により明確になった)。

つまり、教師主導型授業で、サッカーの戦術を攻撃/守備、個人/グループ/チーム、オン・ザ・ボール/オフ・ザ・ボール等の局面に分けて捉え、その局面での戦術について、試合から抽出された課題をトレーニングで改善し、また試合を行うM-T-Mメソッドを用いて指導すれば明確に理解・実戦できる。そして自らのプレーの向上を自己評価する主観的ゲームパフォーマンス達成度評価を用いれば、サッカーの基礎的戦術課題の達成度、達成動機の変化が検証できる。また、戦術習得や判断力の習得(=知識の応用)により、生徒の自己効力感、達成満足等は高められていくと考えられる。

サッカーは、チームメイトとコミュニケーションをとりながら会得した技術・戦術能力を自分の意志で判断・実行しながらプレーする競技である。つまり、監督やコーチ等他者がプレー選択に影響を及ぼしにくい特性から、主体的な態度、自らの意思を発揮することが要求される。教師主導型授業で体得した戦術をもとに、生徒主導型授業(リーグ戦を中心としたゲーム形式主体の授業)での各個人での意思決定(プレーの選択:パスなのか?ドリブルなのか?等)をしながら競技に取り組むことで、生徒の主体的態度、内発的意欲等が向上すると考えられる。

*なお、本研究は「逐次的単元構成によるサッカー授業の実践的研究(2006 筑波大学駒場論集46集)」において、研究の簡単な概要のみについて報告されたものの続報として、記述していないデータ分析・結果を教育方法的視座から検証・検討したものである。

2. 研究の内容・方法

- (1) 先行研究や文献研究等による基礎的研究を行う。
 - (2) 検証授業を計画・実践する。
 - (ア) 対象：東京都T中学校1年生男子123名
 - (イ) 調査期間：平成17年10月24日～12月15日
 - (ウ) 調査方法：質問紙調査（付録参照）
- 調査期日：
- 平成17年10月24日（事前調査）
 - 平成17年11月28日（中間調査）
 - 平成17年12月15日（事後調査）
- (エ) 検証授業の実践（図2参照）

逐次的単元計画 ボールを使った体づくり運動&フットサル(2005/11/22現在)										* 教師指導テーマ				
(1～9時間目:教師主導、10～14時間目:生徒主導)														
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	10月24日	10月26日	11月2日	11月14日	11月16日	11月17日	11月21日	11月24日	11月28日	11月30日	12月1日	12月12日	12月13日	12月14日
	オリエンテーション	ルール学習①	ルール学習②	攻撃の戦術①	攻撃の戦術②	攻撃の戦術③	守備の戦術①	攻撃の戦術④		リーグ	リーグ	リーグ	リーグ	リーグ
	アンケート	試合ゲーム	試合ゲーム	ファーストタッチ	サポート	タレントプレー	ポジショニング	ボディシェイプ		目標確認	対戦相手確認	対戦相手確認	対戦相手確認	対戦相手確認
0	オリエンテーション	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動		ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動
		アンダーハンド	オーバークラウド	インステップ	もも	復習(合わせ技)	ヘディング	ヘディング		テスト				
10	アンケート	ルール講習会	ルール講習会	パス練習	ゲーム	4vs1	ボートボール	ゲーム		リーグ戦	リーグ戦	リーグ戦	リーグ戦	リーグ戦
	単元計画について	(ゲーム形式)	(ゲーム形式)		4vs1	1対1+サーパー	1対1+サーパー	4vs1						
20	授業計画について	チーム名決定	キックイン	ファーストタッチ	サポート	スルーパス	ポジショニング	サポート						
	ボール運動	礼	交代について			チェックの動き								
30	(第一回測定 &説明)	喜ぶ		ゲーム	フットサル(ゲーム)	フットサル(ゲーム)	フットサル(ゲーム)	フットサル(ゲーム)						
40		(マルチボールシステム等ささえる)		(ラインゴール)					アンケート					アンケート
		Match	Training(Analysis)						Better Match					
50														

図2 本研究において実践した単元

*今回は、サッカー授業の実践においてフットサルを教材として導入した。フットサルは以下の利点から、サッカーの戦術習得のための学習効率向上が推察される。

①ボールが弾みにくいので、技術（パス、ドリブル）のミスが少なくなり、プレー中に、人の動きなど戦術行動に集中しやすくなる。

②少人数（サッカー→11vs11、フットサル→5vs5）のため、一人一人のボールタッチ数やボールに関わる回数が増加する。

図3は、球技領域サッカー単元構成の特性要因関係を示している。サッカー戦術の習得に要求される構成要因は、財団法人日本サッカー協会(2002)の指導指針に基づき分類されているものがあるが、本研究では戦術構成の最小単位である個人戦術の習得を中学1年生

の体育授業を通して容易にするために筆者が試案したものである。そして、図2は個人戦術を習得するために実施したサッカー授業の単元である。前半の9時間を教師主導型（個人戦術の知識習得）、後半の5時間を生徒主導型（習得した個人戦術の知識を活用したリーグ戦）で構成し、実施した。

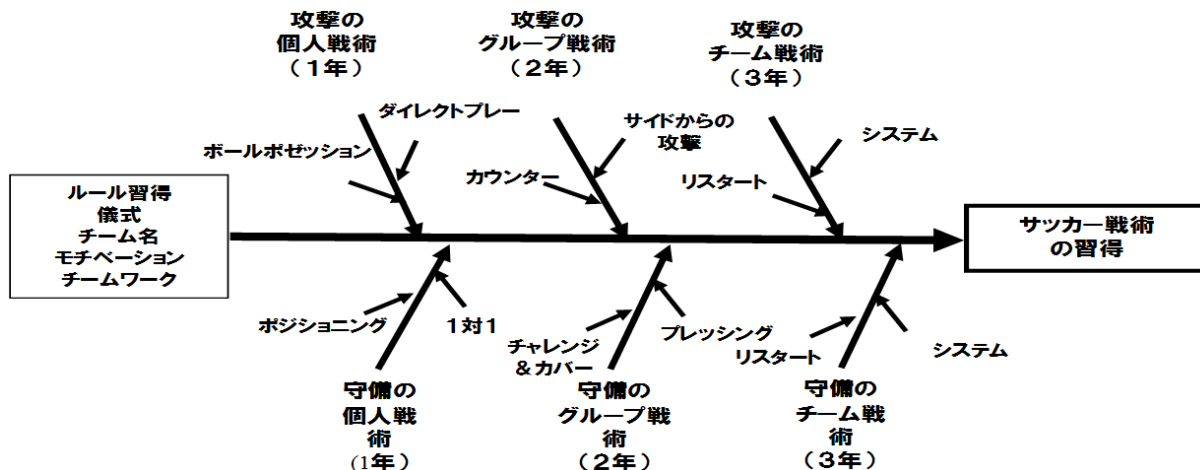


図3 球技領域サッカー単元構成の特性要因関係 (中学保健体育授業での一例として)

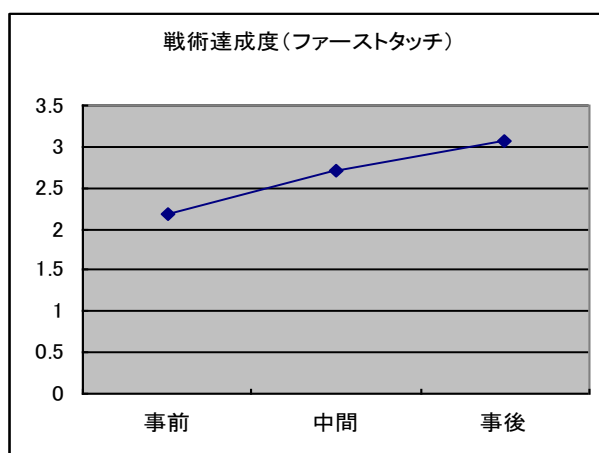
3. 結果及び考察

今回は、質問紙から得られたデータの結果から代表的なものを取り上げ、本研究で得られた知見を述べる。

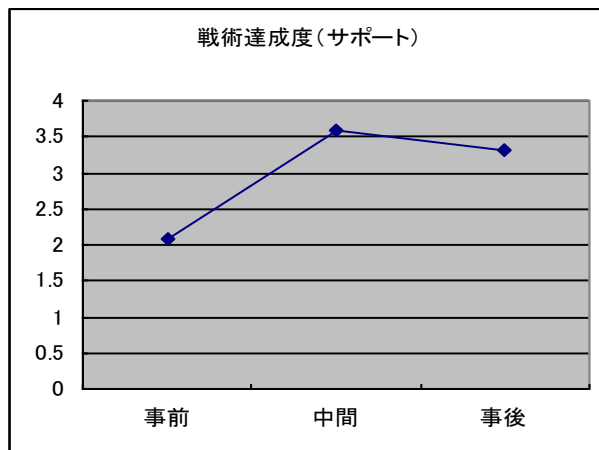
① 主観的ゲームパフォーマンス達成度(主観的GP達成度)について

(グラフ1・グラフ2・グラフ3)

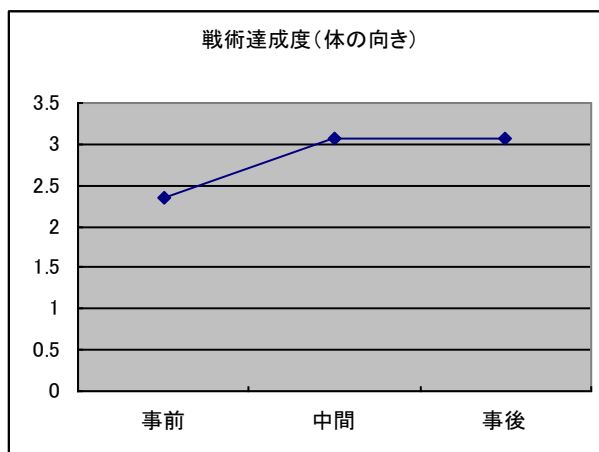
教師主導型の授業 (事前調査～中間調査) により戦術の達成度は向上している。サッカーの戦術を攻撃/守備, 個人/グループ/チーム, オン・ザ・ボール/オフ・ザ・ボール等の局面に分けて捉え, その局面での戦術についてM-T-Mメソッドを用いて指導すれば明確に理解・実戦できることが示唆された。



(グラフ1)



(グラフ 2)

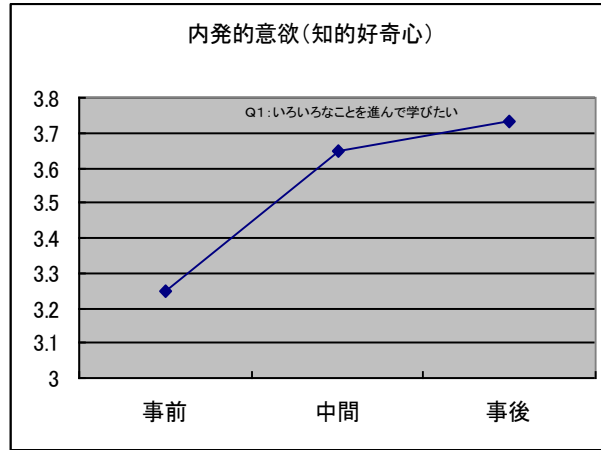


(グラフ 3)

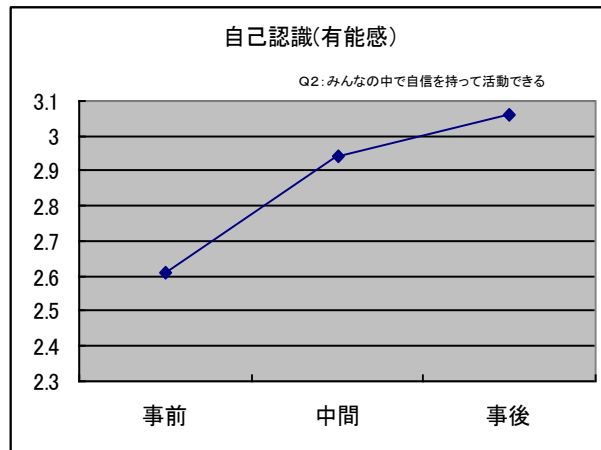
② 主体的問題解決能力について (グラフ 4・グラフ 5・グラフ 6・グラフ 7)

教師主導型授業によりサッカーの戦術を理解・習得することと同時に、生徒の内発的意欲，自己効力感，達成満足，主体的行動等は高められていったことが示された。

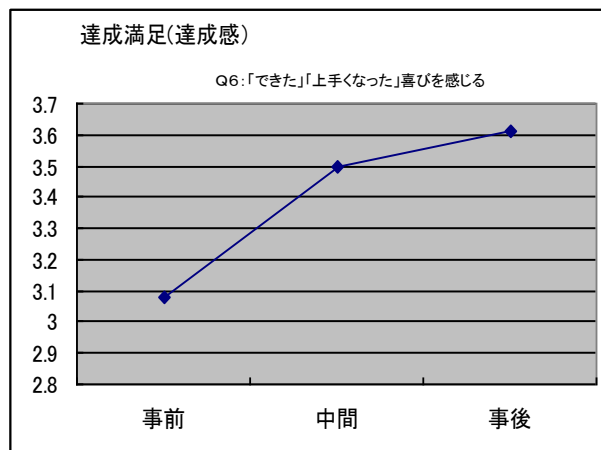
生徒主導型の後半のリーグ戦（中間調査～事後調査）では、生徒たちが自らリーグ戦を行う中においても習得した戦術を実践し、内発的意欲，自己効力感，達成満足が更に向上していた。主体的行動の項目においては他の要素のような向上は見られなかった。著者が実際に授業を行い，生徒達に対する主体的観察からの分析では，戦術習得によりサッカー競技への理解が深まったものの，チームの中でのリーダーシップを発揮する生徒が非常に少なかったことと密接な関係があると推察され，今後の更なる原因分析及び授業実践の改良が必要であると考えられた。



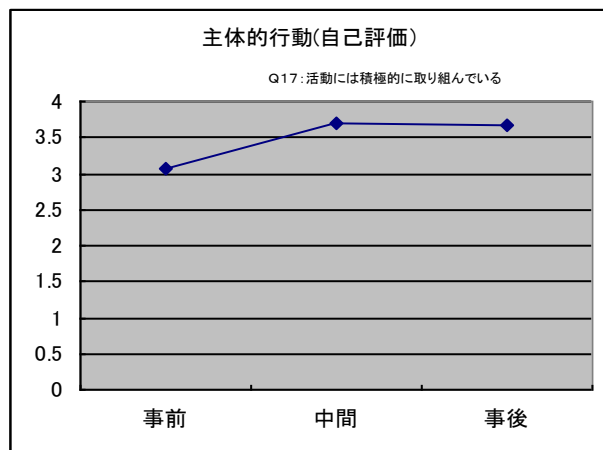
(グラフ 4)



(グラフ 5)



(グラフ 6)



(グラフ 7)

4. 今後の課題

本研究は、逐次的単元構成法による高校3年生選択授業「サッカー」で行われた実践研究を先行研究として、中学1年生で試行した。今後、大学生や小学生等他の年代・領域、教科での継続的な実践を積み重ね、逐次的単元構成法が主体的問題解決能力の育成に有用であることを証明していきたい。

5. 参考文献

- 今泉守正(2003),『生徒の主体的な実践力と課題解決能力を育成する授業のあり方～サッカーの授業を通して～』, 千葉県教育センター論集 2003 年号, 3-9
- 望月紫帆(2012),「育成する力と学習形態」,『新しい教育の方法と技術』, ミネルヴァ書房, 189-208
- 日本サッカー協会(2002), 日本サッカー協会育成年代 強化指導方針 2002, (財) 日本サッカー協会, 8-16
- 鈴木和弘(2002),『「生きる力」を育成する保健体育』, 健学者, 47-56
- 牛尾直行(2012),「授業づくり」『実践に生かす教育課程論・教育方法論』, 学事出版, 94-102

付 録

「サッカー」の授業							
	年	組	番	氏名			
記入日:	年	月	日	所属運動部:			
小学校の時の「サッカー」の授業について、以下の質問にお答え下さい。							領域
問1. サッカーの授業では、どのように感じましたか	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない		達成満足
1) 仲間との活動は楽しい	5	4	3	2	1		楽しさ
2) 様々なゲームを経験することは、楽しい	5	4	3	2	1		楽しさ
3) 新しい知識を得ることは、楽しい	5	4	3	2	1		楽しさ
4) 授業は、充実している	5	4	3	2	1		楽しさ
5) 感動的な場面に出会う	5	4	3	2	1		達成感
6) 「できた」「上手くなった」喜びを感じる	5	4	3	2	1		達成感
7) 仲間の動きやできばえの素晴らしさに出会う	5	4	3	2	1		達成感
8) 授業で「やり遂げた」と感じる	5	4	3	2	1		達成感
9) 仲間と関わり合うことに満足している	5	4	3	2	1		満足感
10) 授業に、満足している	5	4	3	2	1		満足感
11) 授業の進め方に満足している	5	4	3	2	1		満足感
12) 精一杯活動するので、心地よい疲労感がある	5	4	3	2	1		達成感
13) 精一杯活動することができる	5	4	3	2	1		達成感
問2. サッカーの授業には、どのように取り組んでいましたか	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない		主体的行取組
1) 課題を持って授業に臨んでいる	5	4	3	2	1		課題設定
2) 上手くできることを目指している	5	4	3	2	1		課題設定
3) 活動を楽しむことを目指している	5	4	3	2	1		課題設定
4) 体力・運動能力を高めることを目指している	5	4	3	2	1		課題設定
5) 毎時間、自分なりの目標を持って授業を行っている	5	4	3	2	1		課題設定
6) 見通しを持って活動に取り組んでいる	5	4	3	2	1		活動計画
7) 自分自身が向上することが大切である	5	4	3	2	1		活動計画
8) 授業の準備から活動の終了までの流れをつかんでいる	5	4	3	2	1		活動計画
9) 学んで得た事を活用しようとしている	5	4	3	2	1		活動実践
10) 自分に適した学習(上達)方法がわかっている	5	4	3	2	1		活動実践
11) 先生の指示やアドバイスをよく聞いて行動している	5	4	3	2	1		活動実践
12) 仲間の活動や考えていることを参考にしている	5	4	3	2	1		活動実践
13) その時間の学習をまとめ、整理している	5	4	3	2	1		活動実践
14) 授業での成功や失敗の要因を考えている	5	4	3	2	1		活動実践
15) 授業での経験を次の授業に生かそうと考えている	5	4	3	2	1		自己評価
16) 授業にコツコツとまじめに取り組んでいる	5	4	3	2	1		自己評価
17) 活動には、積極的に取り組んでいる	5	4	3	2	1		自己評価
問3. サッカーの授業に、どのように臨んでいましたか	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない		内発的意欲
1) 色々なことを進んで学びたい	5	4	3	2	1		知的好奇心
2) 色々なことに興味を持って取り組みたい	5	4	3	2	1		知的好奇心
3) 自分から学び、活動しようという気持ちになる	5	4	3	2	1		因果律
4) 自分から進んで学習や活動に取り組んでいる	5	4	3	2	1		因果律
5) 難しい課題でも解決の方法を自分で探す	5	4	3	2	1		達成
6) 難しい課題でもやれるところまではやってみる	5	4	3	2	1		達成
7) 簡単にはできない課題ほど、やる気が出てくる	5	4	3	2	1		帰属
8) 自分がやるべきことは最後までやり遂げる	5	4	3	2	1		帰属
9) やることが楽しいので、様々な学習や活動に取り組んでいる	5	4	3	2	1		挑戦
10) 知りたいことがたくさんあるので、学習している	5	4	3	2	1		挑戦
問4. サッカーの授業では、どのように感じましたか	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない		自己認識
1) 学習することは得意である	5	4	3	2	1		有能感
2) みんなの中で自信を持って活動できる	5	4	3	2	1		有能感
3) 授業はよくわかる	5	4	3	2	1		有能感
4) 多くの友達から好かれている	5	4	3	2	1		有能感
5) 友達からスポーツと一緒にやろうとよく誘われる	5	4	3	2	1		有能感
6) 初対面の人とでも一緒に活動できる	5	4	3	2	1		有能感
7) サッカーの授業は好きだ	5	4	3	2	1		有能感
8) サッカーは得意だ	5	4	3	2	1		有能感
9) サッカーは、見るよりもする方が好きだ	5	4	3	2	1		有能感
10) サッカーのプレーには自信がある	5	4	3	2	1		有能感
11) 失敗を恐れず、サッカーのプレーをすることができる	5	4	3	2	1		有能感
12) 自分の体力には自信がある	5	4	3	2	1		有能感

問6. サッカーの授業では、どのように感じていましたか			かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	自己認識
1)		自分の活動内容は、自分で決めている	5	4	3	2	1	自己決定感
2)		何かするときは他人に頼らず、自分の判断で決めている	5	4	3	2	1	自己決定感
3)		友達に相談しながら、活動している	5	4	3	2	1	他者受容感
4)		友達から頼りにされている	5	4	3	2	1	他者受容感
5)		担当の先生から頼りにされている	5	4	3	2	1	他者受容感
6)		友達を信用している	5	4	3	2	1	他者容認感
7)		担当の先生を信頼している	5	4	3	2	1	他者容認感
知らない	知っている	問7. 次のような戦術は知っていましたか、 また、試合でプレーできていましたか、	かなり できる	できる	やや できる	あまり できない	まったく できない	主観的GP達成度
1	2	1) ファーストタッチ(ボールコントロール)	5	4	3	2	1	攻撃、個人、On the ball
1	2	2) ドリブル突破	5	4	3	2	1	攻撃、個人、On the ball
1	2	3) スクリーン	5	4	3	2	1	攻撃、個人、On the ball
1	2	4) ターン(前を向く)	5	4	3	2	1	攻撃、個人、On the ball
1	2	5) パスの精度	5	4	3	2	1	攻撃、個人、On the ball
1	2	6) シュートの精度	5	4	3	2	1	攻撃、個人、On the ball
1	2	7) 体の向き	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	8) チェックの動き	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	9) ブルアウェイ	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	10) ウェーブ(曲線の動き)	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	11) ダイアゴナルラン	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	12) サポート	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	13) ボール保持者とのコミュニケーション	5	4	3	2	1	攻撃、個人、Off the ball
1	2	14) 相手を引きつける動き	5	4	3	2	1	攻撃、グループ
1	2	15) スルーパス	5	4	3	2	1	攻撃、グループ
1	2	16) 壁パス	5	4	3	2	1	攻撃、グループ
1	2	17) クロスオーバー	5	4	3	2	1	攻撃、グループ
1	2	18) オーバーラップ	5	4	3	2	1	攻撃、グループ
1	2	19) 第3の動き	5	4	3	2	1	攻撃、グループ
1	2	20) プレッシング	5	4	3	2	1	守備、個人、On the ball
1	2	21) ボールを奪う	5	4	3	2	1	守備、個人、On the ball
1	2	22) インターセプト	5	4	3	2	1	守備、個人、Off the ball
1	2	23) アプローチ	5	4	3	2	1	守備、個人、Off the ball
1	2	24) 同一視野	5	4	3	2	1	守備、個人、Off the ball
1	2	25) 裏をとられない	5	4	3	2	1	守備、個人、Off the ball
1	2	26) チャレンジ&カバー	5	4	3	2	1	守備、グループ
1	2	27) コレクティブディフェンス(挟み込み)	5	4	3	2	1	守備、グループ
1	2	28) ブロック(守備の壁、絞り込み)	5	4	3	2	1	守備、グループ
1	2	29) クロスボールへの対応	5	4	3	2	1	守備、グループ